

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025 年 9 月 19 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 国際高等教育院

職 名 教授

氏 名 塚原信行

助 成 の 種 類	令和 7 年度 ・ 国際会議開催助成		
国 際 会 議 名	京都大学国際シンポジウム 第4回 先住民言語およびマイノリティ化された言語の再活性化に関する国際会議		
開 催 期 間	2025 年 9 月 12日 ～ 2025 年 9 月 14 日		
開 催 場 所	京都大学吉田南キャンパス		
参 加 者	総 数 220人	内 訳 日本 84 海外 136	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	事業に要した経費総額	3,164,140 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 参加費	
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	基調講演関係(旅費・宿泊費・謝金)	1,178,630	1,000,000
	アルバイト雇用	545,502	
	会場設営	855,999	
	広報宣伝	133,000	
	コーヒープレイク	173,009	
参加者配付グッズ	278,000		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 審査が早いこと、また対応が柔軟なことに非常に助けられました。事務的な負担が最小限で済んだおかげで企画の内容により多くの注意を払うことができ、大変充実したシンポジウムとすることができました。ありがとうございます。		

成果の概要 / 塚原信行

京都大学国際シンポジウムとして、2025年9月12日-14日に京都大学吉田南キャンパスで開催された「第4回 先住民言語およびマイノリティ化された言語の再活性化に関する国際会議」には、国内外から220人に上る研究者や活動家、大学院生などが参加した。第4回となる今回は初のアジア開催である（第1回スペイン、第2回ブラジル、第3回スペイン-フランス）。国際会議の名にふさわしく、全参加者の6割超を日本以外の参加者が占め、使用言語を限定しないという会議運営上の特徴もあって、3日間の期間中、会場は本当の意味での多言語空間と化した。

会議では最終的に、基調報告7件、個人発表72件、パネル11件、ラウンドテーブル2件、ワークショップ5件、全体セッション2件が実施された。

7件の基調講演では、アジア地域における先住民言語およびマイノリティ化された言語の再活性化の事例とともに、最新の研究トレンドが共有された。個人発表、パネルおよびラウンドテーブルでは、非常に多岐にわたる地域とテーマが取りあげられ、活発な質疑応答が行われた。ワークショップでは、研究者のみが参加する会議や学会では見られない、言語保全・再活性化に関わる運動家なども交えた試みが目立った。また、全体セッションのうちの1つでは、「世界言語権宣言」の改訂版作成参加への呼びかけがなされたが、ヨーロッパ的とも言える人権を中心にした価値観に対する異論も出された。これは、アジア開催のため、参加者が従来よりも多様化し、議論の幅が広がった結果と理解することができよう。

本会議の特徴の1つは運動家も参加することだが、今回も研究と実践の架橋を意識するような発表が多かったことは特筆すべきであろう。これは、参加した多くの大学院生にとっても、研究への対峙の仕方や研究の方向性を検討する上で、非常に有益であったと考えられる。

概括すれば、本会議では、多くの地域におけるさまざまな分野での最新の研究結果が共有され、基調講演で示された枠組みを活用しつつ、先住民言語およびマイノリティ化された言語の再活性化というテーマがより多角的かつ精緻に検討され、今後のさらなる発展を促す契機が提供されたと言えよう。